

コシヒカリの1回目穂肥は慎重に判断しましょう!

令和6年7月10日
長岡農業普及指導センター
稲作情報 No.5

電話 0258-38-2557
E-mail ngt111440@pref.niigata.lg.jp

- コシヒカリの1回目穂肥は、草丈が長く、葉色が濃い場合は、倒伏を防止するため慎重に判断する。
- 今夏は高温が予想されており後期栄養確保のため必ず2回目穂肥は施用する。また、出穂前に葉色低下が懸念される場合は3回目の穂肥を施用する。
- 全量基肥肥料栽培であっても、出穂期の葉色（SPAD 値）が 33 を下回ると予想される場合は、必ず追加穂肥を施用する。

1 コシヒカリ定点調査ほの生育（管内7か所平均） 7月10日調査

草丈：	75cm	（指標比 113%	= 長い）
茎数：	516 本/m ²	（指標比 115%	= 多い）
葉数：	11.7 葉	（指標差 +1.0 葉	= 早い）
葉色：	38.2 (SPAD)	（指標差 +2.0	= 濃い）

2 出穂期予想と穂肥時期・量のめやす（7月10日現在）

- (1) 中生・晩生品種の出穂期は、平年より2日程度早い予想です。
- (2) 移植時期やほ場によって生育に差があるので、ほ場ごとに幼穂長を必ず確認してください。

表1 出穂期予想と穂肥時期のめやす（長岡・平場地域）

品種名	想定する移植期 (稚苗の場合)	幼穂 形成期	出穂期	穂肥時期のめやす()は出穂前日数	
				1回目	2回目
コシヒカリ	(5/10~15)	7月11日	8月2日	7/15~18 (18~15)	7/22 (10)
コシヒカリ	(5/20)	7月14日	8月5日	7/18~21	7/26
こがねもち	(5/5~10)	7月5日	7月28日	7/10~13 (18~15)	7/18 (10)
新之助	(5/15~20)	7月16日	8月8日	7/18~21 (21~18)	7/27~29 (12~10)
越淡麗	(5/10~15)	7月16日	8月8日	7/21 (18)	7/29 (10)
あきだわら	(5/10~15)	7月18日	8月11日	7/17~19 (25~23)	7/28 (14)

表2 穂肥量のめやす（N成分合計量）

品種名	施用量 kg/10a	品種名	施用量 kg/10a
コシヒカリ	2~3	越淡麗	2
こがねもち	2~3	新之助	2~3
		あきだわら	5~7*

※1回目 3~4kg、2回目 2~3kg

穂肥施用量は必ず
生育診断に基づき
判断しましょう。

3 コシヒカリの1回目穂肥 ～ “生育診断を実施し時期と量を決定”

- (1) 生育診断を行い、適切に穂肥を施用しましょう（診断方法は、【参考】を参照）。
- (2) 草丈が長く、葉色が濃い場合は、倒伏防止のため1回目穂肥は慎重に判断しましょう。

4 コシヒカリの2回目穂肥 ～ “必ず施用”

- (1) 葉色診断を行い、施用量を判断しましょう（診断方法は、【参考】を参照）。
- (2) 生育診断の結果、1回目穂肥を施用できなかった場合においても、2回目穂肥は下位節間の伸長に影響しないため必ず施用しましょう。
- (3) 1回目穂肥が出穂期18日前より遅れた場合は、1回目穂肥を施用した日の7日後をめやすに2回目を施用しましょう。

5 出穂期間近で高温が予想された場合 ～ “3回目穂肥を施用する”

表3 【分施肥体系】高温が予想される場合の3回目穂肥のめやす(標準的な地力のほ場)※

栽培体系	判断時期・葉色のめやす	施肥時期・施肥量	用いる肥料
一般栽培 (化学肥料栽培)	出穂期3日前の葉色 SPAD値31以下のとき	出穂期3日前 窒素成分1kg/10a以下	化成肥料
特別栽培 (減化学肥料栽培)	出穂期6日前の葉色 SPAD値33以下のとき	出穂期6～3日前 窒素成分1kg/10a	有機100%肥料

6 全量基肥肥料栽培のほ場で葉色低下が進んでいる場合～ “追加穂肥”

表4 【全量基肥体系】高温が予想される場合の追加穂肥のめやす

栽培体系	判断時期・葉色のめやす	施肥時期・施肥量	用いる肥料
一般栽培 (化学肥料栽培)	出穂期までの葉色 SPAD値32～33を下回ると 予想されるとき	出穂期10日前まで 窒素成分1kg/10a	化成肥料
特別栽培 (減化学肥料栽培)	出穂期10日前頃の葉色 SPAD値30以下のとき	出穂期10～5日前頃に 窒素成分2kg/10a	有機100%肥料

7 病虫害対策

(1) いもち病

管内の一部では葉いもちの発生が確認されています。ほ場を見回り、発病を確認したら、穂いもちに進展しないよう直ちに防除を実施しましょう。

(2) 斑点米カメムシ類

7月10日現在「カメムシ類による斑点米の多発生の注意報」が出されています。カメムシ類による斑点米の被害軽減を図るため、畦畔・農道の除草は、イネ科雑草が結実しない間隔(約3週間)で行いましょう。

併せて、水田内雑草(ヒエ、ホタルイ等)を早めに除去しましょう。

○飽水管理を基本とし、用水の節水を図りましょう。また、畦畔等からの漏水がないよう点検・補修を行ってください。

○農作業時の熱中症に注意し、こまめな休憩と水分補給を心がけましょう。

【参考】

1 コシヒカリの1回目の穂肥診断方法【出穂23日前】

(1) 幼穂長を測定する。 → 幼穂形成期・出穂期を予測する。

- ① ほ場内の平均的な生育の株を3株選ぶ。
- ② 株の中で長い方から2~3本の茎を株元から引き抜き、幼穂長を測る。
合計6~9茎の幼穂長で出穂前日数を予測する。(表5)

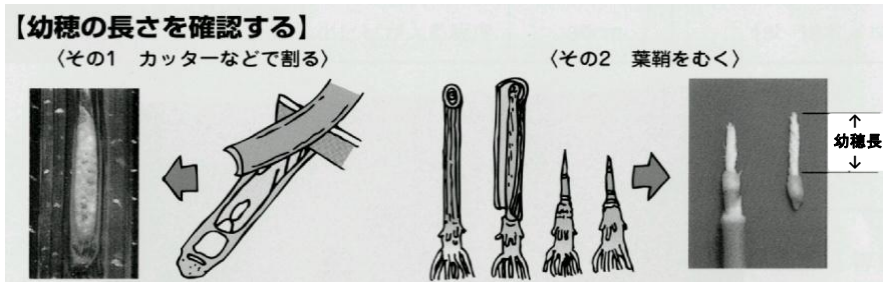


表5 幼穂長と出穂前日数の関係(コシヒカリ)

出穂前日数	幼穂長
23日	0.1cm
20	0.2
18	0.5~1.0
12	4.0~6.0

1回目穂肥時期

図1 幼穂の確認の仕方

(2) 幼穂長0.1cmの頃(幼穂形成期)に草丈・茎数・葉色を測定(10株平均)

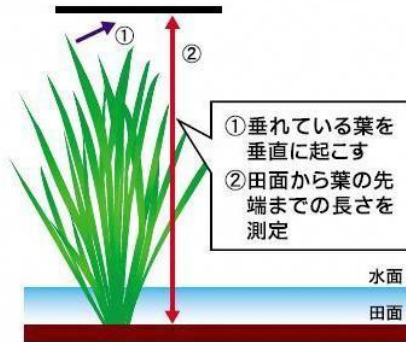


図2 草丈の測り方

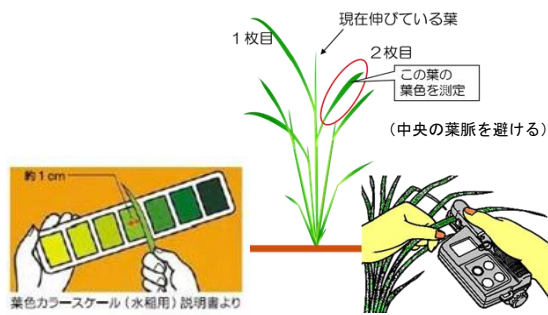


図3 葉色の測り方

(3) 穂肥診断(図4、表6)~草丈と葉色から診断~

【草丈が長く・葉色が濃い場合】→倒伏防止のため、1回目穂肥は控えましょう。

① 「幼穂形成期の生育量」=「草丈」×「葉色」を計算する。

(SPADや葉色板がない場合は、各地に設置されている生育調査ほ場の看板を参考に葉色値を推定する。)

② 草丈と葉色を図4にあてはめ、生育量がどの位置か(A~C)を確認する。

有機50%肥料体系では実線 — が境界、
化学肥料体系では点線が境界。

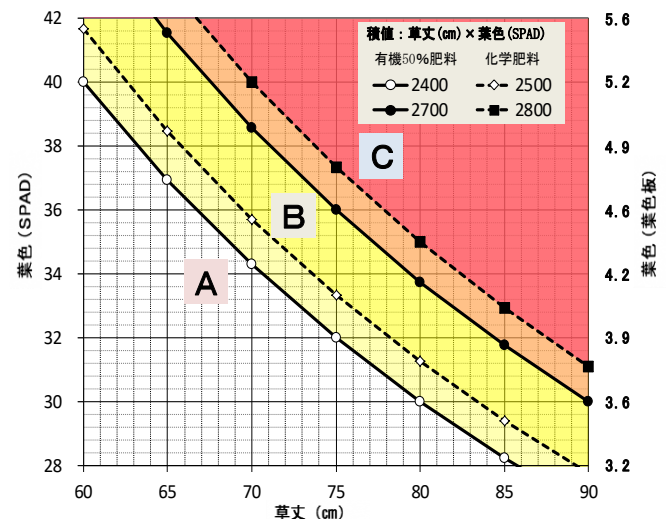


図4 幼穂形成期の生育量(草丈×葉色の値)早見グラフ(図中の曲線は積値[草丈(cm)×葉色(SPAD)]を表す)

- ③ 幼穂伸長期間の気象予報を確認し、表6で穂肥の施用時期と施用量を決めましょう。

表6 コシヒカリ1回目穂肥施用のめやす

幼穂形成期の生育量 [草丈cm × SPAD値]		生育量早見 グラフ内の 位置	幼穂伸長期間の気象予報別の穂肥対応		
			低温・少照・多雨	平年並	高温・多照・少雨
有	2400未満	A	○~△ 時期遅め、 量を控えめ	◎ 出穂18日前 に基準量	◎ 出穂18日前に 基準量
化	2500未満				
有	2400~2700	B	× 施用しない	× 施用しない	○ 出穂15日前に 基準量
化	2500~2800				
有	2700以上	C	× 施用しない	× 施用しない	×~△施用しない 異常高温の場合は 15日前に基準量
化	2800以上				

※ 有：有機50%肥料使用、化：化学肥料使用

【水稻栽培指針 R3.2新潟県農林水産部より】

2 コシヒカリの2回目の穂肥量のめやす

(出穂期の目標葉色に誘導するための2回目穂肥診断)

【診断方法】

- ① コシヒカリの2回目穂肥時期(出穂10日前)のSPAD値を測定する
- ② SPAD値を下図の横軸「2回目穂肥時SPAD値」にあてはめる
- ③ 「2回目穂肥時SPAD値」の縦線が「出穂期の目標SPAD値(32~33のいずれか)」の線にぶつかる位置が2回目の穂肥窒素量となる。

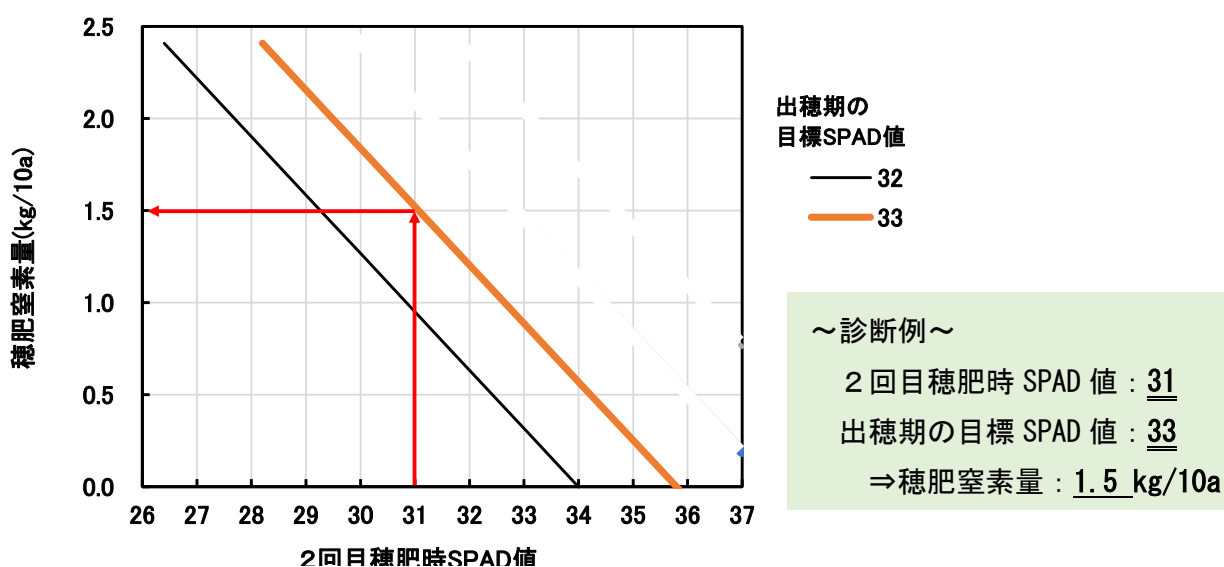


図5 目標とする SPAD 値別の 2 回目穂肥時の SPAD 値と穂肥窒素量の関係

《データ：新潟県農業総合研究所 R5 年度研究速報より抜粋》

※基肥・穂肥ともに有機質 50%肥料を用いた分施肥体系の試験結果に基づいて作成

※5割減栽培の場合、基肥と窒素の化成窒素の合計が 3.5kg/10a 以内になるよう注意する